



黒島の子もたちにジャンベを教わる

第25回 枕崎市少年の船



洋上慰霊祭で献花する子どもたち

先人たちの受けた恩を受け継ぎ 未来へ向け交流を深める

第25回 枕崎市少年の船が5月20日に行われ、小・中学生や一般市民など約240人が参加し、黒島の方々と交流しました。

少年の船は、明治28年に起こった枕崎の海難史上最大の悲劇といわれる「黒島流れ」と、懸命に救出に当たられた黒島住民の温かさを語り継ぐこと、昭和56年に始まりました。昨年は悪天候のため中止となり、2年ぶりの開催となりました。

洋上慰霊祭は、海難の犠牲者を慰霊する白衣観音が見守

るユキノ瀬沖で行われました。田代志乃さん(桜山中3年)が鎮魂のことは述べ、参加者たちが黒島流れで亡くなられた方々の御霊に献花、一分間の黙とうを捧げました。

片泊港に到着すると、多くの黒島の方々が出迎え、子どもたちによるジャンベの演奏で歓迎してくれました。対面式では、子どもたちを代表して、折口恵子さん(立神中2年)が、「これからも黒島の皆さんとともに交流を深め、仲良く助け合っていきたいです」とあいさつしました。

片泊ふれあいセンターで行われた交流会では、黒島流れの紙芝居ビデオが放映されました。黒島の住民たちが、流れている船員たちを懸命に救出したことや、当時「養生米」を炊いてくれていた「養生米」を炊いてくれていた「養生米」など、当時の様子をわかりやすく表現していました。また、黒島の子もたちが枕崎の子もたちにジャンベを指導し、一緒に演奏する一幕もあり、短い時間でしたが、和やかな雰囲気での交流を深めていました。



▲塩屋地区の女生徒たちが『塩屋四ツ竹笠踊り』を披露



▲希望者26名が塩手鼻の慰霊碑に参拝



▲船が見えなくなるまで見送っていただきました



ぼくらが主役！ かつおまつり



雨にも負けず 子どもたちの祭り賑やかに

こどもの日かつおまつりが5月4・5日、会場センターを中心にかつお公社、お魚センターで開催され、家族連れなどでにぎわいました。

今年は悪天候に悩まされましたが、たくさんの子どもたちが、恒例のかつお一本釣り大会やかつお節削り大会など、用意された様々な催しに参加し、元気に連休のひと時を楽しんでいました。

すっかり祭りの定番となった『かつおラーメン』のコーナーには、長蛇の列ができ、雨で少し冷えた体を、おいしいラーメンで温めています。

このほか、水産高校の生徒たちも、実習船「拓言」体験航海など様々なコーナーで祭りを盛り上げてくれました。



▲かつお一本釣り大会で、中学生女子の記録10分を釣り上げた敷根神菜さん(鹿児島市)

まくらぎ朝市10周年

毎月第3日曜日の朝の顔として定着

毎月第3日曜日、枕崎漁港内港で行われている「まくらぎ朝市」が、5月10周年を迎えました。同朝市は、地産産業の活性化などを主な目的として、平成9年5月に枕崎商工会議所が立ち上げました。その後、出店者協議会を組織して出店者自らで運営。野菜や果物、花、惣菜をはじめ、様々なものが販売され、好評を得ています。

近年、絵画展や抽選会、餅つきなども行い、また、年1回、花の苗も無料でプレゼントするなど、より多くの客に楽しんでもらおうと、様々な催しを行っています。また、昨年10月からは鮮魚の販売も始め、評判も上々です。

まだ、行ったことのないという方、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



▲毎回、多くの客で賑わっています。



▲10周年を記念し、カツオジャーも登場。厚石近志協議会長とガッチリ握手。